

## 思いやり 感謝と思いやりの心をもつ・伝える



夏季休業期間中、将来の「夢」や「目標」の実現に向けて、様々な計画や予定があり、それぞれに充実した日々を過ごしたと思います。自分で考え、判断し、時間をかけて取り組んだ実績は、必ず自分の成長につながります。変化の激しい今の時代、子供も大人も、変化を受け入れ学び続ける意欲と態度が求められます。問題

意識をもって学び続けることができる人は、成長し続ける人です。

さて、熱戦が繰り広げられた「全国高等学校野球選手権大会」は、野球関係者のみならず多くの人に関心を寄せる夏のイベントです。私は、岐阜県大会を4試合（大野町立運動公園レインボースタジアム、関市河上薬品スタジアム、ぎふしん長良川球場）、中学硬式野球クラブチームで息子と同じチームであった選手と高校球児の甥を応援しに行きました。

テレビで放映される甲子園球場のアルプススタンドさながら、岐阜県大会においても、チーム関係者（同高校生徒、吹奏楽部、応援団、職員、チームOB、保護者ら関係者）の応援が球場全体に響き、互いの健闘を称え尊重しあう一生懸命な姿に感動を覚えます。勝ち進めば進むほど、応援に熱が入り、応援の規模が大きくなります。現実的な問題として、勝つほどにお金が必要になります。私個人が地方球場に入場するだけで700円必要です。私の甥は高山市の高等学校に在籍し、ベスト8まで進みました。選手やチーム関係者、応援団が県内移動するだけでも数十万円が必要になります。応援グッズとして「うちわ」「タオル」などを作製し関係者へ配布するにも経費が必要です。県大会を勝ち抜き、選手権大会出場となれば、旅費、宿泊費、飲食費、練習グラウンド借用費、応援団の移動費、物品の輸送費など、数百万～数千万は必要になります。勝ち進むほど、お金が必要になるのです。選手が自分で費用を工面するわけにはいきません。選手を支える関係者、保護者がなんとかしているのです。その原動力は関係者で共有された「夢」「目標」であり、「思いやり」「感謝」の心だと思うのです。

左画像は、3年3組の生徒が7月2日の給食後に、調理員さんへ送った手紙です。国語科で学習した俳句で感謝の思いを表現しイラストとともに伝えています。人にして頂くことについて「うれしい」「ありがたい」といった感謝の「思い」を私たちは抱きます。「思い」は表現することで相手に伝わります。積極的な行為は「思いやり」となって相手に伝わります。給食室で働いてみえる調理員さん方は、とても感激したと私に伝えてくれました。

私も生徒の皆さんと学校で業務を行う調理員さん方の心の絆を感じることができ、とても嬉しく思いました。感謝と思いやりの心を持ち、積極的に伝えようとする生徒の姿は、本校でめざす生徒の姿の一つです。仲間、家族、先生、地域の方など、多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があると考えていくことができている生徒だと私は思います。

教頭 後藤 弘行